

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

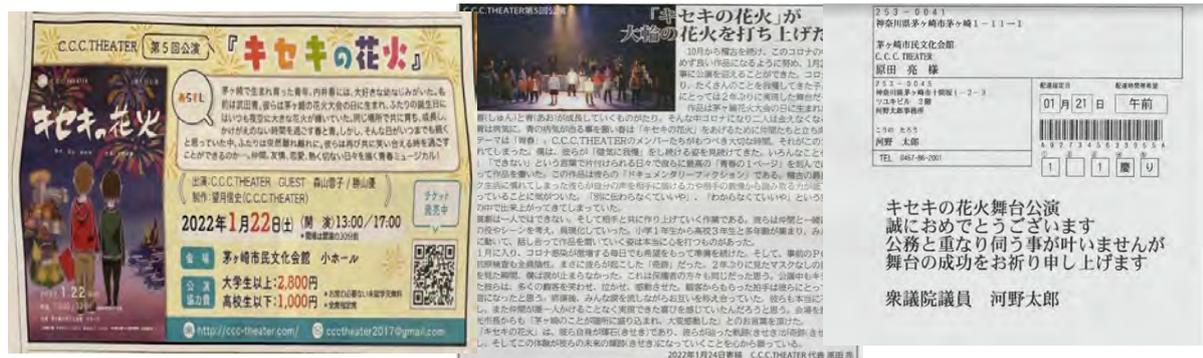
C.C.C.THEATER

所在地	神奈川県茅ヶ崎市	設立年	2017年
運営主体	C.C.C.THEATER		
事業目標	<p>【メンバー】 稽古(月3回※公演前は毎週末)と公演(年一回)を通じ、以下の点を醸成する。 ・自分の意見や気持ちを伝えられるようになる。 ・他者の話に耳を傾け、思いやりをもって受け入れられるようになる。</p> <p>【保護者】 ・子どもの成長において、演劇教育の有用性を理解してもらう。</p> <p>【団体】 約4年間活動を継続してきて、現在は茅ヶ崎市内さらにはそれ以外の小学校・中学校からの参加者が在籍している。様々な地域での子どもたちや保護者のつながりは増えつつあるが、さらに学校や地域のコミュニティとの連携に力を入れ、子どもたちのより豊かな芸術活動の普及を目指す。</p>		
きっかけ	<p>C.C.C.THEATERは、茅ヶ崎市内小学校演劇クラブにおいての、指導または演劇教育の普及活動を発端としている。 2017年に持続可能な事業に発展させるために、茅ヶ崎市の子ども達を中心に展開する劇団C.C.C.THEATERを設立した。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	・C.C.C.THEATER稽古場・茅ヶ崎市内公共施設		
活動概要	<p>C.C.C.THEATERは、2017年に設立し、小学1年生から高校3年生までの幅広い世代と一緒に活動をしている。役者を育てるのではなく、演劇を通じて、子どもたちが自ら考える想像力、他者と一緒に作る創造力を育み、演じる経験で、自分にしかできない自己表現の楽しさを体験してもらい、自己肯定感を獲得すること。また、仲間との新しい出会いとともに多様性を受け入れ、思いやりの心を持つ事の学びを大切にしている。</p>		

〇本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

- ・コロナ禍において、なかなか思うように活動ができなかった状況でしたが、子どもたち自身がこの状況に向き合い、みんなで作品をあきらめずに作り上げたことで自信や自己肯定感に繋がりました。
- ・保護者からは、学校や家庭では見れない姿や子どもの成長が見られて、良かったと多くの感想が聞くことができ、演劇の力を実感していただけたと考えています。
- ・市長をはじめ行政関係、市内の事業者、河野太郎衆議院議員など、多くの方からご支援いただくことに繋がっており、今後の活動に向け、一定の認知がされたと考えています。
- ・タウンニュースにも複数回取り上げていただき、今後につながる関係性を築くことができました。



〇児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

- ・小学生から高校生まで、幅広い世代がいるため、小学生低学年、高学年、中学生以上とカテゴリーを分け稽古を行い、公演作品のテーマや方向性が浸透してきたのちに全体での稽古へ移行した。
- ・子どもたち自身が、何を感じ、考え、どうしたいのかを問い、自己決定を促すことを大切に、作品を自分ごとにするのを徹底的に行いました。

〇運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

- ・指導の工夫にも係る点ですが、コロナ禍でも実施できるように、3つの世代別カテゴリーに分け、密にならないように行った。また、全体稽古の際にも、シーン毎に分けて稽古をするなどの工夫を行った。
- ・公演一カ月前と一週間前にPCR検査を実施し、すべての参加者、スタッフの陰性を確認をし、安全に十分に配慮を行った。

〇継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する

- ・活動場所については、今後、人数が増えてくることを考えると、より広く定期的に使用できる場所を検討する必要があるが、行政との連携や費用面での課題が考えられる。
- ・指導者や管理者については、人数が増え、また拠点が増えた場合は、今のクオリティや教育的意義を維持するためにも、同じ理念をもった指導者や管理者を増やさなければいけない。そのためにも、今後は指導者・管理者の発掘についても注力をしていきたいと考えます。
- ・活動経費については、まずはメンバーを増やすことで、持続可能な基盤づくりへの最も重要な点です。そのためにも、定期的な発表会や体験会、さまざま行事へ積極的に参画をしていきたいと考えています。
- ・教育機関(学校)との連携を強化し、定期的な学校公演の機会を創出することで教育の重要な要素として、認識を持ってもらいたい。
- ・地域移行に係る教員の責任については、民間に委ねるべきであると考えますが、地域で子供を育てるという観点では、一定の関心を持ってもらいながら、共に子どもたちへの様々な機会を作るためのパートナーとして役割を担うことができると考えています。
- ・教育委員会との連携は、公演や各種イベントに対し、後援を積極的にしてもらおう形で、地域で育てるアピールができると考えています。必要に応じて、共同で作品作りを行うなどができれば、より高度な連携が生まれると考えています。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

・活動場所については、地域移行をするにあたって、定期的にできるだけ、同じ場所である必要があると考
※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『[地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト](#)』を参照すること。

参加者 (予定人数)	対象:小学1年生～高校3年生 32名(公演参加者)
募集方法	無料体験会の開催、チラシ、SNS(Facebook、Instagram)
指導者	・内田亮(C.C.C.THEATER)演劇指導・演出 ・小杉恵理子(C.C.C.THEATER)演劇・ダンス指導 ・森山蓉子(外部)歌唱指導 ・勝山優(外部)歌唱指導
移動手段	自転車、公共交通機関の利用、または保護者による送迎
活動費用	・4月～9月(月に3回) ①6000円(月額)または、一回2500円(チケット制) ・10月～1月(月に8回) ②8000円(月額) ③30000円(公演参加費)
スケジュール	・4月～9月(月に3回、2時間、日曜日に開催。) ・10月～1月(月に8回、2時間～6時間、毎週土日開催。) ・中間発表会の開催(2021年9月12日実績) ・本公演(2022年1月22日実績) ・公演振り返り(2022年2月13日実績)
保険加入等	スポーツ保険加入(小学生～中学生800円、高校生1850円)

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照
掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に
記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた
観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子（写真添付）】

